

ハートパル

2022年
7月
24号

市職員育休パパにインタビュー！

2020(令和2)年度の男性の育児休業取得率は、12.65%で、政府が目標としていた「2020年度までに13%」には及ばないものの、初めて1割を超えました。2022(令和4)年4月からは、企業には従業員への育児休業制度の周知と意向確認が義務付けられたほか、10月からは「出生時育児休業(産後パパ育休)」制度が新設され、原則分割ができなかった育休を2回に分けて取得できるようになります。

今回は、育児休業を取得した市の長寿介護課の尾上係長(O氏)、川上職員(K氏)を迎え、育児休業の体験についてインタビューしました。

Q-育休を取得しようと思った理由は何ですか？

O-自分は40代で、子どもと共有できる時間に限りがあるため子育てを一緒にしたいと思い切って申請しました。

K-小さい頃から子どもが好きで、中学校の職場体験や大学の卒論も保育や子育て支援をテーマに選びました。妻とも妊娠前から「育休を取れるなら一緒に取ろう」と話し合っていました。

Q-育休期間をどれくらい取りましたか？

O-1カ月が希望でしたが、予算編成や出産が年末に重なったことから職場への影響も考えて、2週間可能かなと決めました。

K-妻の実家は親の介護をしており、里帰り出産は諦め、自分の業務も考慮して、床上げまでの6週間と決めました。

Q-実際に育休を取ってみていかがでしたか？

O-退院後、妻が一人で育児をしている期間があり、朝から晩、そして夜中までひっきりなしに世話する様子を見て、「妻一人に任せておくべきではない」と強く思いました。実際にやってみると本当に大変でした。

K-一日中、育児を通して子どもと触れ合えてよかったです。

Q-育休を取って自身や生活の変化はありましたか？

K-1人暮らしの時から延長のような感じで、特に変化はありません。ただ、春に今の部署へ異動したばかりなので、早く業務に慣れてなるべく時間内に帰れるようにしたいです。

O-残業することができなくなったので、以前より集中

して仕事の効率化を図るようになり、また周りの仲間にもサポートしてもらったりしています。



Q-パートナーが復帰のタイミングで保育園が決まらなかった場合、育休を再取得しますか？

K-うちはもう妻(看護師)も半年で職場に復帰し、子どもも保育園に預けています。



O-なるべく保育園に入れるように早く準備して動くつもりですが、もし入れなかったら育休を交代で取ることも妻と相談していこうと思います。

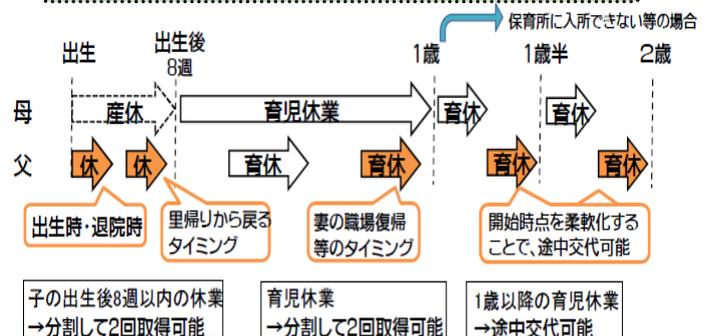
Q-最後に、男性の育休取得率を上げるためには、どうしたらいいと思いますか？

O-自分は実際に育休を取っている人が職場にいることを知らなかったの、知っていれば事前にいろんなことを相談できたと思います。取得した人や期間などの情報を公表してもらえたら、取得申請者の増加に繋がると思います。人事課に問合せをしたら個別に教えてもらえるだけでも助かると思います。

K-係長と同感です。私は公表してもらって構いません。誰かから相談があれば、お答えします。

すぐ近くに、男性で育児休業を取得した人がいることを初めて知ったお二人。お互いの状況を聞きながら、男性の育休が当たり前になり、「あんなインタビューがあったね～と言える日が早くきてほしいですね」とインタビューを終了しました。

令和4年10月から実現できる働き方・休み方(イメージ)



♡ 育休パパアンケート ♡

令和3年度に育休を取得した男性職員からアンケートの回答をいただきました。抜粋して紹介します。

◎育休取得日数

令和3年度の男性職員の育児休業について

- ・育児休業取得対象者20名、取得者 7名
- ・取得率 35.0%
- ・取得期間
5日以上2週間未満…2名
2週間以上1月以下…1名
1月超3月以下…1名
3月超6月以下…3名



上司の声

育児休業を取得することは本人にとっても家族にとっても良いことだと思います。ただし、業務の処理や引継ぎ等を円滑にするため、早い時期に相談することが重要です。

また、上司は日頃から、育休に限らず部下の親の介護や持病等、可能な範囲で事情把握に努め、緊急な時でも配慮や対応がしやすいような職場作りを目指すことが大切だと思います。

育休取得によって、本人は業務の効率化をより一層図るようになり、周りの職員も定時退庁や休暇を取りやすい雰囲気になったと思います。



◎次回取得するとしたら、何日とりたいですか？

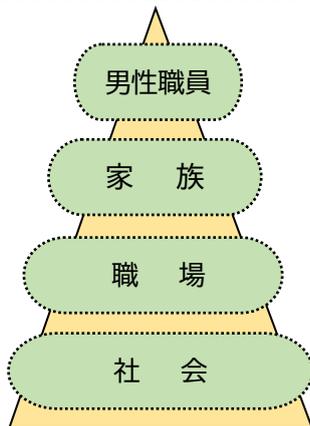
- ・1月超3月以下…1名
- ・3月超6月以下…3名
- ・6月超12月以下…1名
- ・12月超24月以下…1名



◎その他、要望や貴重な意見をご紹介します。

- 妊娠を知った時点で上司に相談したら、積極的に取得するように言われ、背中を押してもらいました。
- 産後の女性は相当のストレス下にあるので、育休を取得しパートナーの負担を減らしてもらいたい。
- 育休対象者へ取得制度についての詳しい説明があるといい。
- 取得率を上げるために、人事評価の評価項目としたりいいと思います。
- 貴重な体験でした。外出先での赤ちゃん連れに対する人々の優しさや配慮が染みる毎日でした。
- 育休についての啓発や情報発信をもっとしてほしい。
- 取得すること自体が当たり前になり、『イクメン』という言葉がなくなることを望みます。
- 業務次第では育休が取りにくかったり、引継ぎが大変だったりするが、上司や同僚に早めに相談・早めの業務処理することで解決できると思います。

★男性育児参画推進の意義



- ・親子の関りが深まる
- ・両立経験により仕事の効率向上
- ・「産後うつ」のリスクを下げる
- ・家事と育児のサポート整備
- ・業務の見直し、チームマネジメントの浸透
- ・その他の事態にも対処できる体制作り
- ・女性の活躍推進と少子化対策
- ・国全体が変わるきっかけ

★編集後記



今回の『ハートパルだより』編集に際して、たくさんの方のご協力により貴重なお話やデータをいただきました。紙面スペースの都合上、限られた掲載となり大変残念です。是非、次回の特集時などに活用させていただきます。

★令和4年7月3日に開催されました『ハートパルまつり』は、8月号にて詳しく報告させていただきます♡

☆当センターの講座・イベントに参加し右図の駐車場をご利用の場合は、無料駐車券を発行します。

【問合せ先】大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」

〒856-0832

大村市本町 458 番地 2 プラットおおむら 4 階 (旧浜屋ビル)

TEL : 0957-54-8715 FAX : 0957-54-8700

Eメール : danjyo-s@city.omura.nagasaki.jp

【問合せ時間】 月～金 9時00分～17時00分(祝・年末年始休)

